

科目名	生薬学		
英語名	Pharmacognosy		
開講期	前期（春学期）月/3	選必区分	薬大（必修）・関大（選択）
単位	薬大 1.5・関大 1.5		
代表教員	芝野 真喜雄		
代表教員以外の担当者			
授業の目的と概要			
<p>生薬は人類が自然の恵みを利用して作りあげてきた薬物であり、各国の伝統医療や民間療法に使用されている。一方、我が国の現代医療では、様々な疾病治療に漢方薬が取り入れられており、それらの漢方薬を構成している生薬の知識がより一層必要になってきている。さらに、欧米諸国においても、伝統医学などを積極的にとりいれた「統合医療」が提案されている。この授業では、各生薬の実物や、基原植物のスライド（写真等）を用いて、日本薬局方に収載されている代表的な生薬について解説する。さらに、薬用植物園での観察会を実施し、重要生薬の基原植物や薬用部位、有毒植物について理解を深める。</p>			
一般目標（GIO）			
<p>本授業では、生薬の基原、性状、含有成分、品質評価、生産と流通、歴史的背景についての基本的知識を習得する。さらに、臨床で使用される漢方薬について理解するために、漢方生薬の薬能や副作用についての知識も習得する。</p>			
授業の方法			
教科書を用いて講義形式で授業を行う。また、観察会（野外学習）を取り入れる。			
アクティブ・ラーニングの取組			
<p>超高齢化社会における漢方薬や生薬の利用法の提案について調査考察し、レポートを作成する。 見学会では、各自で課題を決め、観察レポートを作成する。</p>			
成績評価			
<p>薬大：定期試験結果（70%）、課題レポート（20%）、観察会で提出したレポート（10%）により評価する。 関大：レポート（50%）および出席状況（50%）によって総合的に評価します。</p>			
学位授与方針との関連			
薬剤師として医療に関わるための基本的知識、特に漢方薬の基礎となる生薬に関する知識を身につける。			
関連する科目			
関連科目	基礎漢方薬学、漢方医学概論、薬用天然物化学、薬用植物学		
臨床系関連科目・内容	臨床現場で使用される漢方薬を理解するために、漢方薬を構成する生薬の基礎的知識を習得する科目である。すなわち、薬剤師にとって、漢方薬の作用や副作用を理解するには生薬の知識が必要不可欠である。		
教科書・参考書等（書名・著者・出版社）			
教科書	ミニマムファクター漢方生薬学－漢方と生薬を紐解く基本事項と考え方－ 芝野真喜雄 京都廣川書店		
参考書	生薬単－改訂第3版 伊藤 美千穂・北山 隆 監修 / 原島 広至 著 丸善雄松堂		
授業計画			
回数・項目（担当者）／到達目標（SBOs）／授業内容／【コアカリ番号】			
1 総論（センブリ、ジュウヤク、ゲンノショウコなどの民間薬も含む）			

2 各論 カンゾウ

世界の伝統医学と生薬の歴史について概説できる。【\*】

世界の伝統医学について概説できる。【\*】

植物の学名および生薬の学名が説明できる。【C5(1)①-1】

日本薬局方収載の代表的な生薬を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。【C5(1)②-1】

日本薬局方収載の代表的な生薬の薬効、成分、用途などを説明できる。【C5(1)③-1】

副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。【C5(1)③-2】

生薬の薬能について説明できる。【\*】

生薬の同定と品質評価法について概説できる。【C5(1)④-1】

生薬の生産と流通について概説できる。【\*】

生薬生産に取り巻く環境問題を概説できる。【\*】

※授業項目に挙がっている生薬の基原植物について、1年生で学んだ薬用植物学や天然物化学の知識を復習して授業に臨むため、1.5時間ぐらいの予習が必要である。また、学習した生薬については、参考図書などを利用し、理解を深めること。さらに、植栽場所を示した基原植物については、次の授業までに、薬用植物園で観察し確認しておくことなどの復習に1.5時間が必要である。

3 各論 ニンジン、オウギ、タイソウ

4 各論 ダイオウ、センナ

5 各論 マオウ、ケイヒ、ショウキョウ、カッコン

6 各論 オウレン、オウバク、オウゴン

7 各論 シャクヤク、ボタンピ、ジオウ、トウニン

8 各論 トウキ、センキュウ

9 各論 ブクリョウ、チョレイ、ビャクジュツ、ソウジュツ

10 各論 ブシ、カンキョウ、ウイキョウ、ゴシユユ

11 各論 チンピ、キジツ、コウボク

12 各論 サイコ、ハンゲ、ゴミシ、キキョウ

13 各論 ロートコン、ベラドンナコン、ホミカ、センソ、ゴオウ

日本薬局方収載の代表的な生薬を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。【C5(1)②-1】

日本薬局方収載の代表的な生薬の薬効、成分、用途などを説明できる。【C5(1)③-1】

副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。【C5(1)③-2】

生薬の同定と品質評価法について概説できる。【C5(1)④-1】

生薬の薬能について説明できる。【\*】

※授業項目に挙がっている生薬について教科書を熟読し、あらかじめ生薬の薬効などを調べるために1.5時間ぐらいの予習が必要である。また、学習した生薬については、参考図書などを利用し、理解を深めること。さらに、植栽場所を示した基原植物については、次の授業までに、薬用植物園で観察し確認しておくことなどの復習に1.5時間が必要である。

14 観察会

武田薬品・京都薬用植物園の協力で、本学薬用植物園では観察できないダイオウやシャクヤク、ボタンなどの薬用部位や有毒植物について見学する。(授業開始後、6回目ぐらいに実施する。)

代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。【C5(1)①-2】

※観察会までに学んだ生薬をもう一度復習し、観察会に臨むために1.5時間ぐらいの復習が必要である。また、観察会後のレポート作成に2時間ぐらいは必要である。

授業外学習

観察会は関西大学の学生も対象とする。